



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



五十嵐 武教授を偲ぶ

歯学部長 宮崎 隆

本歯学部口腔微生物学講座五十嵐 武教授におかれましては、久しく闘病生活を続けておりましたが、平成24年2月5日に54歳の生涯を閉じられました。前途洋々たる五十嵐教授の余りにも早い訃報に接し、関係者一同、大きな驚きと強い悲しみに襲われています。



五十嵐先生は、新潟県のご出身で、昭和52年4月に本学薬学部薬学科に入学されました。歯学部1回生と同じ学年です。学生時代はバスケットボール部で大活躍をしました。学業優秀で、昭和56年3月の卒業時には上條賞を授与されています。引き続き大学院に進学し、生理化学を専攻して薬学修士を取得されました。昭和58年4月からは歯学部口腔細菌学教室に助手として勤務を開始しました。同年7月から2年間、米国フロリダ医学研究所のウイルス部門に留学し、最先端の研究手法を学びました。帰国後、講師、助教授と昇進を重ね、平成16年10月に、後藤延一教授の後任として口腔微生物学講座の主任教授に就任しました。

歯科における代表的な疾患である齲蝕と歯周病はバイオフィルムによる感染症ですが、五十嵐先生は齲蝕病原菌とバイオフィルム形成機構を解明し、齲蝕の予防ならびに診断法に多くの業績を残しました。平成8年には基礎歯学の専門学会である歯科基礎医学会の最高の顕彰である歯科基礎医学会賞を受賞しています。また平成13年には、本学歯学部内で当時研究業績の最も優れた助教授以下の教員に与えられる上條奨学賞研究補助を受賞しています。

教授就任後は教室の研究体制を整備し、全国から若く意欲的な研究者をスタッフに迎え、臨床系教室との共同研究が活発になり、研究業績がますます上がってきました。新しい研究に果敢に取り組み、これから飛躍的な研究が期待される所でした。

学生教育においては、感染と免疫、齲蝕と歯周病の基礎、口腔の生態系など、新カリキュラムの目玉の科目を担当し、卒業時の学生による評価では毎年わかりやすい講義担当者のトップの評価を受けてい

ました。

歯学部の運営についても、五十嵐教授は、歯学部の広報誌である歯学部だよりの初代編集長をはじめ、共用試験CBTの実施委員長や入試常任委員など多くの委員を務められ、本歯学部の発展に多大な貢献をされました。

五十嵐先生は一昨年春から体調の不良を訴えて、8月に藤が丘病院に入院して手術を受けました。手術が無事に終了し、大学の業務に少しずつ復帰しました。昨年の夏には私の部屋で久しぶりにゆっくりと話をされ、早いもので手術後1年経ったけど食事も食べられるようになり肉もついて元気ができたと話され、私も安心いたしました。教授会の仲間も皆、五十嵐先生の完全な復帰を楽しみにしていましたが、秋が深まり体調を崩されて再度藤が丘病院に入院されました。医療スタッフとご家族の手厚い看護の甲斐もなく、二度と大学に足を運ぶこともかなわず他界されましたことは誠に痛恨の極みであります。私の耳には、今も先生の優しくしっかりとしたお声が残っています。まさに、研究と学生教育に最後まで情熱を持ち続けた壮絶な一生でありました。

五十嵐先生の研究と教育に対する高邁なご遺志を、あとに残された我々一同はしっかりと受け止め、先生のご功績とご貢献に限りない尊敬と感謝の念を捧げ、静かにご冥福をお祈り申し上げます。

歯科医師国家試験が実施されました

D6チューター会議 佐藤 裕二



2月4-5日の2日間にわたり、西巣鴨の大正大学で第105回が実施されました。試験地は、北海道、宮城県、東京都、新潟県、愛知県、大阪府、広島

県及び福岡県の8ヶ所ですから、今回の大正大学での試験は、昭和、医科歯科、日歯、日大、日松、東歯、神歯、鶴見、松本などから多くの受験生が集まりました。

国試の難化のなかで、他大学が卒業生を絞っている状況ですが、本学では学生のがんばりと教員の熱意で、乗り切りたいものです。会場前で数名の関係者が会場入りする本学の受験生を激励しました。3月19日の発表を楽しみに待ちたいと思います。

CBT が実施されました

CBT委員 荒木 和之

2月1日(水曜日)に、平成23年度共用試験 CBT が実施されました。インフルエンザが流行の兆しを見せ始めている時期であり心配していま



したが、4年生91名は欠席もなく全員無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、学生は午前9時10分に集合し、全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており、各ブロック60分で解答をおこないました。最後にアンケートをして解散となりました。学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、CBT事前説明会の開催やCBT体験テストを経験していたこともあって、これといった混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。運営は、北川先生(実施責任者)、美島先生(副実施責任者)、馬谷原先生(サイトマネージャー)、坂井先生(サイトマネージャー)と私が担当しました。試験監督は午前・午後各3名のべ6名の体制でおこない、基礎系の先生方をお願い致しました。

当日は共用試験実施機構から日本歯科大学新潟生命歯学部佐藤教授、愛知学院大学の福田教授がモニタ委員として派遣され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、受験態度や実施状況など、全体的に良好でしたとのコメントをいただきました。

CBT 実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆さんには、この場を借りて御礼申し上げます。

OSCE が実施されました。

歯科補綴学講座 菅沼 岳史

2月19日(日)に歯学部4年生を対象とする共用試験OSCEが、歯科病院において185名のスタッフ(教員155名、職員4名、SP18名、実施機構モニター2名、機構派遣外部評価者6名)で実施され、91名の受験生が受験しました。今回は、昨年度機構モニターから指摘された事項(前日の準備と評価のすり合わせ、テストランの方法など)を改善し、大きなトラブルもなく無事終了することができました。即日集計の結果、各課題の到達度の低かった学生に対しては補講を実施し、3名の学生に対して再試験を行う予定です。週末の貴重な時間にもかかわらず多くの教職員の方々にご協力を頂きありがとうございました。

新 D2オリエンテーションが開催されます

教育委員長 井上 美津子

平成24年度より新2年生のオリエンテーションが変更になります。従来は4月の初日に行っていたオリエンテーションを、24年度からは3月下旬の8日間(3月21日から3月30日まで)を使って行うというものです。片桐学長の発案で、富士吉田の教育部から各専門学部に進む新2年生に、学習内容の紹介やワークショップなどを行って、学習への興味や意欲を高めようというものです。4学部合同で行うオリエンテーションや学長、理事長のIdentity教育などと、各学部ごとに行うスケジュールが予定されています。従来のオリエンテーションの内容に加えて、新D3~D5の先輩の体験談を聞いたり、旗の台校舎の見学ツアー(オリエンタリング)などがはじめにあり、続いて「基礎歯学入門」では2年次以降に学ぶ基礎科目の概要を理解することで学習意欲を高めてもらい、「臨床歯学入門」では最近の臨床の話題を提供することで臨床への興味を高め、また臨床と基礎歯学知識の関連性を理解してもらうことを意図しています。学外の見学なども計画しており、ワークショップでは指導担任との懇談の場なども予定されています。このオリエンテーションが新2年生にとって一年間の充実した学生生活につながることを期待しております。

平成23年度先端歯学国際教育ネットワーク国際シンポジウムで発表しました

歯周病学講座 相澤 怜

2月9日、10日の2日間、新潟県で開催された「QOL2012 国際シンポジウム」に参加して参りました。「先端歯学国際教育研究ネットワーク」等の主催で開催された本シンポジウムでは、基調講演の他、国内外の研究者の特別講演や大学院生による研究発表が行われました。私は今回、昨年9月に開催された「先端歯学スクール2011」で発表させていただいた関係で、研究発表を行う機会をいただきました。

本シンポジウムでの講演および討議はすべて英語で行われ、質疑応答や情報交換が活発に行われていました。今回は、研究に有益な知見をいただくのと同時に、英語でのディスカッションの難しさも痛感し、今後の課題を得ることができました。このような機会を与えていただいた歯周病学講座の山本教授、口腔生化学講座の上條教授をはじめ、共同研究者の先生方に感謝申し上げます。



ポルトガル・マロクリニックを訪問して

歯科補綴学講座 佐藤 大輔

本年1月10日から、ポルトガル共和国・リスボンにあるマロクリニックを訪問しました。マロクリニックは、インプラント治療に用いられるAll-on-4コンセプトを開発したパウロ・マロ先生が代表を務める、7つの手術室と70以上の診療チェアを持つ世界最大級のオーラルリハビリテーション施設で



す。All-on-4コンセプトとは、無歯顎者に対して、臼歯部に傾斜をつけてインプラントを埋入することにより上顎洞や下顎管を避けて、骨移植を行うことなく、手術直後から補綴物を装着できる治療術式です。日本国内においては、現在においてもAll-on-4は名前ばかりが先行して、正しい知識が普及していると言い難いように感じます。今回は、日本でのマロクリニックグループの唯一のパートナーであるマロクリニック東京・下尾嘉昭先生のご好意により、彼らのミーティング・研修に同行する機会を得ました。All-on-4に関する最新の知見のレクチャー、マロ先生とのディスカッション、毎日10例以上行われる手術も多数見学させて頂く中で、治療期間を短縮し、骨移植の外科侵襲を抑えることのできるAll-on-4コンセプトは、正しい手順で行えば有効で理にかなった治療法であることを再認識いたしました。

卒業試験作成ワークショップが行われました

D6チュータ会議議長 佐藤裕二

2月4日に歯科病院で開催されました。卒業試験をいかにして妥当なものにするかについて、24名の参加者、5名のタスク、2名の事務により、4時間にわたりグループごとの問題ブラッシュアップと全体ディスカッション、問題作成を行いました。開催に先だち、参加者は本年度卒試必修問題22問を解くという試練が突然与えられました。久々に専門分野以外の問題に悪戦苦闘でしたが、結果のほどは、「秘密」です。ただ弘中先生が最優秀賞を受賞されました。

学習の評価である卒業試験は、学生の到達目標の明確化にとっても重要です。本学では、これからもよりよい評価を目指して行きます。ワークショップ終了後は、懇親会が行われ、教育についての熱い議論は夜まで続きました。



戦略的大学連携支援事業 口腔医学シンポジウムで講演を行いました

口腔リハビリテーション医学講座 高橋浩二

1月22日鶴見大学会館にて歯学教育者と一般市民が参加して“口腔医学シンポジウム 口腔の病気と全身の健康～口腔医学の展開～”が開催されました。片岡竜太教授が司会され、福岡歯科大学長北村憲司先生が基調講演「口腔医学の目指すもの」を担当され、口腔医学の歴史と展望について話されました。続いて神奈川県歯科大学歯科医療社会学分野山本龍生先生が「高齢者大規模追跡調査から見てきた口腔が全身の健康に果たす役割」として口腔疾患と全身疾患の関連についての疫学調査を報告しました。

私は「大学専門診療科における口腔機能リハビリテーションの展開」として当科の摂食・嚥下治療の実態、入院加療、癌専門病院との連携、本学の摂食・嚥下教育について動画を多用して解説しました。

続いて、鶴見大学口腔内科学講座里村一人先生が「わが国の歯科医学・歯科医療の現状と口腔内科設立の意義」として新設講座の今後の展開について報告されました。

最後は福岡歯科大学細胞生理学分野岡部幸司先生が「口腔医学の展開を見据えたカリキュラムの再編成」として歯学教育における医学教育の充実化について報告されました。最後は神奈川県歯科大学久保田英朗先生がモデレーターとなり、市民の方も加わり白熱した討論が行われました。



大学院歯学研究科入試が実施されました

歯学研究科運営委員長 佐藤裕二

2月19日に大学院歯学研究科春季Ⅱ期入学試験が行われました。一般選抜18名(うち、昭和大学出身7名、外国人留学生1名)、社会人特別選抜1名の合計19名でした。

12月10日に行われた春季Ⅰ期入試の22名(一般13名、社会人9名)と合わせて41名となり、年間総受験者数は過去最高を記録しました。ちなみに過去4年間の推移は26, 29, 29, 22名でした。今年増加には、昭和大学以外の卒業生の増加も貢献しています。本学大学院の評判が学外でも高くなってきたことはうれしいことです。さらに内容を充実させるために、専門医養成コースの創設も検討中です。

選抜 I 期入試が実施されました

入試常任委員 山田庄司

平成24年度歯学部 I 期, センター I 期の入学試験が1月26日(木)に東京会場(五反田TOCビル), 大阪会場(新大阪丸ビル新館), 福岡会場(南近代ビル)の3会場です。同時に実施されました。昨年の東京会場は旗の台キャンパスの他に, 保健医療学部の一部が横浜キャンパスでも行われましたが, 今回は五反田TOCビルに統一されました。歯学部の志願者は地方会場を合わせて, 選抜 I 期(50名募集)が256名(22%増), センター I 期(10名募集)が108名(29%増)でした。当日の欠席者は選抜 I 期が7名(欠席率 2.7%)センター I 期が3名(欠席率 2.8%)でした。当日は医学部や教育部の教員にもご協力をいただき, 特にトラブルもなく無事終了いたしました。

合格発表は1月30日(月)に行われ, 合格者80名(男子47名, 女子33名)を発表しました。また, センター I 期の合格発表は2月3日(金)に行われ, 18名(男子7名, 女子11名)の合格者を発表しました。

また, 平成24年2月26日(日)には, 選抜 II 期, センター II 期, 編入 II 期の入学試験が予定されています。職員の皆様には今後ともご協力のほど, よろしくお願いいたします。

	選抜 I 期		センター I 期	
	H24 年	H23 年	H24 年	H23 年
志願者数	256 名	210 名	108 名	84 名
受験者数	249 名	201 名	105 名	75 名
合格者数	80 名	79 名	18 名	8 名

受賞

広報委員長 井上 富雄

第4回 口腔先端応用医科学研究会(平成24年1月21, 22日, 東京) 若手賞ファイナリスト

・大学院4年 松本貴志(歯科補綴学)

演題名: 転写因子 Alx3 は BMP シグナルを増強し, 骨芽細胞分化を促進させる。BMP-2 induced expression of Alx3 that is a positive regulator of osteoblast differentiation.

・大学院3年 秋山智人(歯科補綴学)

演題名: 炎症性サイトカインによる破骨細胞分化におけるリシン特異的ジンジパインの役割。Roles of lysine-specific gingipain in osteoclast differentiation induced by inflammatory cytokines.

診療統計(平成24年1月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,698	726.0	814.3	743.0
入院患者	427	13.8	16.9	13.8

今シーズンのインフルエンザ

総合内科 井上 伸

今シーズンのインフルエンザは昨年10月より報告されています。昭和大学歯科病院ではここしばらく発生をみておりませんでした。本年1月下旬に最初のインフルエンザが教職員に発生いたしました。いずれもA型で現在最も流行している「A香港型」と思われます。既に大半の教職員が予防接種を済ませていると思われませんが, 日常の予防対策として,

1. 栄養と休養を十分に取る
2. 人混みを避ける
3. 適度な温度・湿度を保つ
4. 手洗いとうがいを励行する

などがあります。特に, 体力をつけて抵抗力を増やすことが肝要ですが, 日常の余分なストレスを減らして十分な睡眠をとり, 免疫力を高めることも重要です。歯科病院内臨床スタッフのマスク着用はほぼ完全に実施されていますが, 発熱や倦怠感などの異常があれば速やかにインフルエンザ迅速テストを受けて, 陽性の場合は服薬と自宅安静していただくことが重要です。現在の治療の主流は「イナビル」で, 1回の吸引で完了します。疑わしい場合でもお気軽に総合内科にご相談ください。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

3月8日: 歯学部4年生 OSCE 追再試験

3月15日: 卒業式

3月16日: 大学院歯学研究科修了式

3月17日: 文部科学省戦略的研究基盤形成事業
研究成果発表会

3月19日: 第105回歯科医師国家試験合格発表

4月2日: 進級式・白衣授与式(D5), D5健康診断

4月3日: D2・3・6健康診断

4月4日: D4・5健康診断

4月7日: 大学院入学式

4月9日: 入学式および入寮式

編集後記

口腔病理学教室 山本 剛

6年ぶりという記録的な寒さの冬でしたが, 徐々に暖かくなってまいりました。CBTやOSCEなども終了し, いよいよ今年から新2年生のオリエンテーションが開催されます。今月号は若い先生方の活躍や受賞の記事が多く, 紙面に入りきれない程でした。将来この2年生の中から, 紙面を賑やかす先生方が多数輩出されるようしっかりと背中を押してあげる事が大切だと感じます。お忙しい中ご執筆下さった先生方に心より感謝いたします。